

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA
Vol. 35, No. 4 April 1989

泌尿器科紀要

第35巻 第4号 1989年4月

【原著】

経皮的腎尿管結石摘出術243例の検討	坪井 成美・ほか	559
上部尿路結石の Endourology による治療成績	柳下 次雄・ほか	565
尿中逸脱酵素・蛋白に関する研究 第3報：非イオン性造影剤の尿中逸脱酵素・蛋白に及ぼす影響について	安本 亮二・ほか	571
制癌剤注入療法抵抗性の再発性表在性膀胱腫瘍に対する BCG 膀胱内注入療法	竹内 信一・ほか	577
原発性膀胱上皮内癌8例の臨床的観察	村瀬 達良・ほか	583
膀胱全摘出術後の新しい尿路再建術： Colon Bladder Replacement の経験	山中 望・ほか	587
急性単純性膀胱炎に対するポリミキシン B 1 回膀胱注入療法	鈴木 康義・ほか	593
夜尿警報器による夜尿症の条件づけ治療に関する検討	八竹 攝子・ほか	597
進行性前立腺癌に対する Medroxyprogesterone acetate 大量療法による除痛効果	笹川五十次・ほか	603
前立腺癌排尿障害に対する経尿道的切除術の効果	福岡 洋・ほか	609
CDDP 腎毒性に対する Fosfomycin の予防効果の検討	与儀 実夫・ほか	615
Real-time mechanical sector duplex scanner を用いた Chemical prosthesis によるインポテンスの診断、治療 —糖尿病患者を中心に—	中島 洋介・ほか	623

【症例】

超音波検査にて偶然発見された副腎腫瘍の3例	本多 正人・ほか	631
インターフェロンにより CR を得た肺転移を有する腎細胞癌の1例	米田 尚生・ほか	637
腎細胞癌と鑑別困難であった腎血管筋脂肪腫の1例	上村 博司・ほか	643
超音波検査が有用であった間歇性水腎症の2例	二村 貢・ほか	647
Ciclosporin 投与腎移植患者における <i>Pneumocystis carinii</i> 肺炎症例の検討	金 哲将・ほか	653
非外傷性腎被膜下血腫の1例	渡辺 仁・ほか	661
腎内異物の1例 一邦報告例の統計的観察—	山口 誓司・ほか	665
Ileocystoplasty の術後29年目に膀胱腺癌を発見された1例(英文)	長谷川総一郎・ほか	671
脊髄損傷患者に発生した膀胱憩室内腫瘍の1例	林 美樹・ほか	675
S 状結腸に浸潤した膀胱腺癌の1例	小出 卓也・ほか	681
ループス膀胱炎の1例	国見 一人・ほか	685
膀胱後部腫瘍(奇形腫)の1例	長谷 行洋・ほか	689
高齢者に初発したセミノーマの1例	大山 哲・ほか	693

【治験】

腎機能障害例におけるアミノ配糖体の臨床的研究 —HBK の体内動態および血液透析と吸着による除去効果について—	荒川 創一・ほか	697
淋菌性尿道炎に対する Norfloxacin の使用経験	三矢 英輔・ほか	705
複雑性尿路感染症に対するアズトレオナム (AZT) の臨床的検討	郡 健二郎・ほか	711
ニューキノロン系抗菌剤、T-3262 の1988年における 尿路感染症に対する治療成績	鈴木 恵三・長田 恵弘	717
Sulbactam (SBT) と Cefoperazon (CPZ) の 前立腺組織内への移行について	岡村 廉晴・ほか	727

泌尿器科紀要

Advisory Committee

阿曾 佳郎 熊本 悦明 園田 孝夫 田崎 寛 前川 正信
町田 豊平 宮崎 重

Editor : 吉田 修

Deputy Editor : 竹内 秀雄

Associate Editors

大川 順正 折笠 精一 熊沢 浄一 小磯 謙吉 友吉 唯夫
渡辺 決

Editorial Board

生駒 文彦 上田 豊史 碓井 亜 大江 宏 大島 伸一
大島 博幸 大田黒和生 大野 良之 大森 弘之 岡 隆宏
岡島英五郎 岡田謙一郎 岡田 裕作 岡本 重禮 香川 征
垣添 忠生 片山 喬 加藤 哲郎 守殿 貞夫 河合 恒雄
河田 幸道 河邊 香月 川村 寿一 川村 猛 桐山 啓夫
栗田 孝 桑原 正明 郡 健二郎 古武 敏彦 小松 洋輔
小柳 知彦 近藤 厚生 酒徳治三郎 桜井 勗 里見 佳昭
島崎 淳 白井 将文 瀬川 昭夫 田中 啓幹 津川 龍三
土田 正義 東間 紘 中田 瑛浩 名出 頼男 東原 英二
久住 治男 平尾 佳彦 三品 輝男 宮川美栄子 三宅 弘治
宮崎 一興 矢谷 隆一 八竹 直 山中 英寿 山辺 博彦

Managing Editor : 松田 公志

Language Editor : 貝原 純子

Secretary : 太田 賢

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 8,000 円 (送料とも) を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都 5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1989年3月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨床統計、そのほかで英文または和文とする。原著、症例報告、臨床統計などは、他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
 - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文 5 頁 (400 字 × 20 枚) までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文 3 頁 (400 字 × 12 枚) までとする。
 - (3) 和文原稿はできるだけワープロを使用し、B 5 版用紙に 20 字 × 20 行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め (ただし、文節の始めに来る場合は大文字)、タイプで明瞭に記載する。
 - (i) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名 (教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順に和文で記載する。筆頭者名と、2 語以内の running title を付記する。
例；山田，ほか：前立腺癌・PSAP
 - (ii) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5 語 (英文) 以内の Key words、抄録本文の順に B 5 版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
 - (4) 英文原稿は A 4 版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず) の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
 - (5) 図 (Fig.)、表 (Table) は必要最小限にとどめ、普通論文では図 10 枚、表 10 枚まで、症例報告では図 5 枚、表 3 枚までとする。
図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい (コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印 (直接写真に貼付) などを入れ、わかりやすくする。
- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる (アルファベット順不可)。その数は 30 までとする。
例：山田^{1,2,7)}、田中ら^{8,11-13)}によると…

雑誌の場合—著者名 (全員)：標題、雑誌名 巻：最初頁-最終頁、発行年

例 1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. J Urol 124: 205-207, 1980

例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, 飛田収一, 大石賢二, 東 義人, 岡田裕作, 川村寿一, 吉田修：経皮的腎碎石術 (PNL) および経尿道的尿管碎石術 (TUL) にみられる発熱について。泌尿器科紀要 33: 1357-1363, 1987

単行本の場合—著者名 (全員)：標題、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: Urolithiasis Research. Edited by Fleisch H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976

例4) 大保亮一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学，診断・治療編。吉田 修編，第1版，pp. 259-301，南江堂，東京，1986

- (7) 原稿は，オリジナル1部とコピー2部（図，写真は3部ともオリジナル）を書留で送付する。万一にそなえて，コピーを手元に控えておくこと。

（原稿送付先）

〒606 京都市左京区聖護院山王町18

メタボ岡崎 301号

泌尿器科紀要刊行会宛

- (8) 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。
 (9) 論文の訂正：査読審査の結果原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，編集部宛送付すること。なお，Editor の責任において多少字句の訂正をすることがある。
 (10) 校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
 (11) 投稿にあたっては，本誌を十分参考にして体裁を守ること。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする。

迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算したものを申し受ける。

- (2) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。

- (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療器械の使用などに関する研究論文(治験論文)については，掲載料を別途に申し受ける。

4. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.

2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.

e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer・PSAP

3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.

4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.

5. For further details refer to a recent journal.

泌尿器科紀要 第35巻 第4号 1989年4月25日 印刷 1989年4月30日 発行
 発行 吉田 修 顧問 加藤 篤二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎 301号 電話 (075) 752-0100
 F A X (075) 752-0190

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
